



## 「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽に寄ってください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-6838-9222）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

### airborne contact dermatitisについて (黄砂は原因になる?)

環境中でairborne contact dermatitis(空気伝播性接触皮膚炎、以下、ACD)をおこしうる物質を一通り教えていただけませんか。

というのは、日常診療で、顔面などの皮膚炎に対して接触皮膚炎を強く疑うものの、どんなに問診やパッチテストをしても、原因を特定しきれない症例を多数経験します。そんなとき、ACDなどありはしないか? と想いがめぐるのです。ホルムアルデヒド、ウルシ、香料、スギ花粉などは報告があると思うのですが、その他にはどんなものがACDの原因となるのでしょうか? イチョウなどではおきないものなのでしょうか?

また、当地が九州のため、春先は「顔が痒い、黄砂やPM2.5のせいではないか?」と質問されます。PM2.5に関しては、皮膚科領域ではいまのところまったくそのような知見はないと認識していますが、いかがでしょうか? また、黄砂についてはいかがでしょうか? 個人的には、黄砂は有機物を含む砂に大陸沿岸の工業地帯の化学物質(PM2.5含む)がまわりついたものであり、皮膚炎の原因になっているのではないかと疑っています。しかしながらそのような論文を見かけたことがありません。根拠に乏しいネット記事は多数見受けるのですが。

最後にもう1つうかがいたいのですが、何年も前から、自分の愛車に積もった黄砂を集めて被疑

症例でas isのパッチテストをしてみようかと思っています。時節ごとに含有成分のばらつきはあるでしょうが、ナンセンスなことでしょうか?

植田代三

(福岡県田川市・植田皮膚科クリニック)

### 【コメント】

ACDは空気中に含まれる粉塵、ガス、スプレー、花粉などの接触アレルゲン、接触刺激物質によって発症する接触皮膚炎の総称です。原因物質は化粧品のスプレー、植物、羊毛、プラスチック、レジン、薬品など多岐にわたります。職業性とは非職業性で原因物質は異なり、職業と関連しない原因物質としては化粧品、植物、薬品、香水、デオドラント、洗剤の順に高いようです。原因となるアレルゲン(ハプテン)ではエポキシレジン、ニッケル、香料、balsanof peru、コバルトなどスタンダードシリーズに入っているアレルゲンが高頻度です。植物関係では花粉も原因の1つでスギ花粉以外にブタクサ、ヨモギの花粉でもACDの報告があります。黄砂、PM2.5によるACDは皮膚科関係の雑誌ではありませんが、鳥取大学の太谷眞二先生が黄砂による皮膚障害が喘息などの全健康障害の29%に認められ、ニッケルのパッチテスト陽性が22%であり、金属アレルギーをおこす可能性を指摘しています(Otani S. et al: Int J Environ Res Public Health 9: 4606, 2012)。この論文では米子市で調査した黄砂による健康障害が認められた62症例中18症例(29%)に皮膚障害が認められています。黄



砂が大量に飛散したときに顔などの露出部に痒みが認められた症例が18症例、赤い皮膚が4症例、湿疹が4症例です。金属パッチテストを行い皮膚障害がある群とない群で統計学的な有意差が認められたのがニッケルだけでした。皮膚科医が診断していないので接触皮膚炎が発症したのか明らかではありませんが、黄砂がニッケルアレルギーの原因になる可能性が示唆される興味深い論文です。基本的に原因になるアレルゲンはスタンダードシリー

ズに含まれている物質が多いようですので、スタンダードパッチテストを施行することは意味があると思います。黄砂as isでのパッチテストは刺激性の可能性を否定する必要もあるため正常人に行い、できれば白色ワセリンで希釈した状態で施行するほうが安全です。黄砂による接触皮膚炎に関しては今後大学などでさらなる解析が必要と思います。

**横関博雄**

(東京医科歯科大学皮膚科教授)